

小児用 7 価肺炎球菌ワクチン(PCV7^{セブン})

肺炎球菌は小児・成人ともに肺炎や髄膜炎、中耳炎、副鼻腔炎などの原因となる病原性の高い細菌です。肺炎球菌による感染症は特に 2 歳未満の乳幼児でリスクが高く、命にかかわることや障がいを残すことがあるので、ワクチンによる予防が非常に重要です。肺炎球菌には 90 種類以上の型があり、そのうち 23 種類をねらった 23 価肺炎球菌ワクチンが主に 65 歳以上の高齢者を対象に接種されています。しかし、このワクチンでは免疫力が未熟な乳幼児に十分な免疫をつけることができませんでした。

そこで、小児に感染しやすい 7 種類の肺炎球菌をねらって、キャリア^{たんぱく}蛋白という特殊な蛋白質やアルミニウム塩を加えて免疫誘導を高めた 7 価肺炎球菌ワクチン (PCV7) が新たに開発されました。米国では PCV7 を導入してから、ワクチンと同型の肺炎球菌による重症感染症が約 8～9 割減少したことが報告されています。また、小児から肺炎球菌をうつされることが減るため、成人の肺炎球菌感染症も減少します。現在、PCV7 は世界 98 か国で発売、45 か国で定期接種され高い有効性が証明されています。

PCV7 の接種は標準的には生後 2 か月～7 か月の間に開始し、4 週間隔で 3 回接種します。さらに 1 歳～1 歳 3 か月の間で 1 回、計 4 回接種します。生後 7 か月を過ぎてしまった場合でも途中から接種することができます。アルミニウム塩が含まれているために少し腫れやすいですが、重篤な副反応はごくわずかと報告されています。市では 5 歳になる誕生日の前々日までの乳幼児を対象に、公費助成が来年 3 月 31 日までの時限措置として実施されています。ほかのワクチンとの同時接種も可能なので、かかりつけ医とスケジュールを相談して上手に接種しましょう。

(このコラムは市立病院 病院総務課 電話 (260) 0111 が担当しています。)